

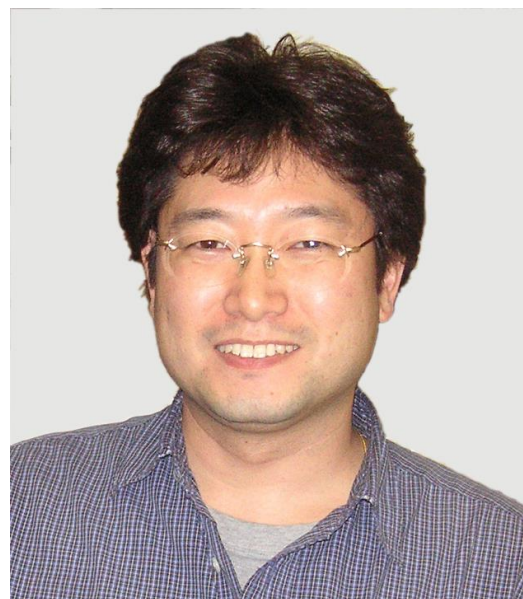
4名の有識者とのパネル・ディスカッション

日本の「知恵(ナレッジ)」+現地の「課題」=新たな可能性

矢後 勝也(東京大学総合研究博物館・助教)

自己紹介

- 専門はチョウ類を主体とした昆虫自然史学、保全生物学
- 国内外のチョウ類の多様性調査(約30ヶ国)
- 日本蝶類学会副会長
- 日本昆虫学会 代議員・自然保護委員長
- 日本鱗翅学会 評議員・自然保護委員長
- 環境省 レッドリスト選定・評価検討会委員 他各種委員
- 東京都 レッドリスト検討会・昆虫部会委員
- 地球規模生物多様性情報機構 日本ノード運営委員
- 著書として、珠玉の昆虫標本(東京大学出版会)、新訂原色昆虫大図鑑 第1巻 蝶・蛾篇(北隆館)、日本産チョウ類の衰亡と保護第7集(日本鱗翅学会)、フィールドガイド日本のチョウ(誠文堂新光社)など



カンボジア南西部・カルダモン山脈での調査(2006年2月)



カルダモン



雲に超える木々



水たまりに造った炊事場



調査を行う矢後

ベースキャンプの様子

絶滅危惧チョウ類の保全生物学的研究

絶滅を防げるか
瀬戸際の保護対策

オガサワラシジミ

ツシマウラボシシジミ

ミヤマシジミ

オオルリシジミ

生物多様性が減少する要因

• 生物多様性の4つの危機:

(「生物多様性国家戦略」より)

①開発など人間活動による危機

- ・環境破壊や違法伐採、乱獲など

②自然に対する働きかけの縮小による危機

- ・雑木林・草原・農地の管理放棄
- ・シカなどの害獣による悪影響

③人間により持ち込まれたものによる危機

- ・外来生物や化学物質の影響など

④地球環境の変化による危機

- ・地球温暖化や海洋の酸性化による影響など



シカ食害の影響により国内最絶滅危惧となったツシマウラボシシジミ(2014年当時)



環境大臣、長崎県知事、
対馬市長に要望書提出
を伝えた記事

朝日新聞(2014年2月14日)

固有亜種・対馬のチョウ 絶滅危機



ツシマウラボシシジミ＝日
本チョウ類保全協会提供

国内で長崎県対馬市だけに生息する日本の固有亜種のチョウ、ツシマウラボシシジミが絶滅の危機に直面しているとして、日本鱗翅学会と日本チョウ類保全協会は13日、環境相、長崎県知事、対馬市長に対策を求める要望書を送った。幼虫の餌となる下草を食い荒らすシカ対策を求めている。

このチョウは環境省のレッドリストの絶滅危惧Ⅱ類に登録されている。かつては対馬北部に広く分布していたが、現在の生息地は1カ所だけだ。鱗翅学会によると、

学会など、シカの食害対策要望

シカの食害は草だけでなく成虫が蜜を吸う花にも及び、日本在来種のチョウ類約240種のうち絶滅の危険性が最も高いという。

要望書では、①生息地へのシカの侵入を防ぐ柵の設置②チョウの人工繁殖を担う常設施設の整備③餌の草を増やす施設の確保——などを求めている。鱗翅学会自然保護委員長の矢後勝也・東京大助教は「いま手を打たなければ1～2年で絶滅してしまう。専門家集団として保全に協力したい」と話している。 (田中啓介)

ツシマウラボシシジミの保全活動(環境省、対馬市、日本チョウ類保全協会、東大、昆虫園等)



保全エリアの



力防護柵の設置



食草・吸蜜植物の植栽



ウラボシイタケ計画



学校への標本寄贈

カンボジアでの森林における課題と本事業での可能性

- ・違法伐採
- ・森林開拓の加速化
- ・地域社会や先住民族への抑圧 etc.

「カンボジア：チョウ類飼育事業」
(海外の事例＋日本のナレッジ)

- ・違法伐採(温暖化)の抑制
- ・森林の持続的利用
- ・地域社会の交流・経済への貢献
- ・環境教育の向上 etc.

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)
17項目のうちの11をカバー

